

目次

はじめに	3
Foreword	
大橋 正和/Masakazu OHASHI	

原著論文

「智のゲーム」としての冷戦史観: 国民国家と情報智業の重畳モデルの試み	5
A Cold-War Analysis of Emerging Power Containment : A Super-Imposed Model between Prestige Games and Knowledge Games	
前田 充浩/Mitsuhiro MAEDA	
情報社会学の視点による国際レジーム分析 - アジア太平洋経済協力(APEC)を事例として-	23
The APEC Regime : Analysis from an Infosocionomics Perspective	
服部 崇/Takashi HATTORI	
定量的解析手法による西ヨーロッパの一人あたりGDPの長波分析	39
Analysis of long wave in per capita GDP of west Europe by the use of quantitative analysis method	
大手 方如/Masayuki OTE	
国別トップレベルドメイン名(ccTLD)の利用実態とそのガバナンスの課題	49
Administration of the Country -Code Top- Level Domain (ccTLD) and its Governance Issues	
上村 圭介/Keisuke KAMIMURA・三上 喜貴/Yoshiki MIKAMI	
“東京県民” の多様な東京スタイル - mixi の県民コミュニティにみる共有性と固有性-	59
Various Styles of “Tokyo-Kenmin” - Analysis of the Common and Original Characteristics of the Prefectural Communities on mixi -	
山崎 由佳/Yuka YAMAZAKI・熊坂 賢次/Kenji KUMASAKA	

研究ノート

地域活性化事業と地域の伝統産業とのコラボレーションにおける人的ネットワーク形成の効果に関する研究 - 桐生市の事例から-	75
Research on effect of human network established by collaboration with local revitalization project and tradition industry - The case with Kiryu City -	
吉見 憲二/Kenji YOSHIMI・金光 永煥/Hidehiro KANEMITSU・豊川 正人/Masato TOYOKAWA・中里 秀則/Hidenori NAKAZATO・星合 隆成/Takashige HOSHIAI・樋口 清秀/Kiyohide HIGUCHI	
高等学校におけるメディア教育の可能性に関する一考察	89
- 総合的な学習の時間と放送部による映像制作の事例を比較して-	
A study on the possibility of media education in high school: Analyzing the two cases of Video Production Activities in a integrated study and Broadcasting Club	
妹尾 克利/Seo KATSUTOSHI	
インターネットトラブルの分類方法の提案	101
Proposal of classification method of Internet related troubles	
田代 光輝/Mitsuteru TASHIRO	

オピニオン・リーダー層の変化と消費者行動―「渋谷系」ストリート・ファッションを事例として― Changes in opinion leaders and consumer behavior :Case study of Shibuya-kei street fashion 中村 仁/Jin NAKAMURA	115
投稿のご案内	125

Journal of The Infosocionomics Society

Foreword

VOLUME6 No1, 2011

はじめに

情報社会学会会員の皆様

東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げますと共に被災地の一日も早い復旧、復興を心よりお祈りしております。

未曾有の大震災、原発事故、その被害の大きさ、深刻さに心を痛めるばかりです。

情報社会学会では、今回の大震災からの復興への IT 支援について、学会を呼びかけ人とし会津泉氏を中心としてプロボノ・プラットフォーム (iSPP) を立ち上げ様々な復興支援活動を開始しています。5 月末には、そのための新たな組織も立ち上がりました。会員の皆様方のご支援・ご参加をお待ちしております。

『情報社会学会誌』第 6 巻第 1 号をお届けいたします。
本号は、査読審査を経た原著論文 5 本及び研究ノート 4 本を掲載いたしました。
いずれも、時期にかなった興味深いテーマが取り上げられました。

原著論文「「智のゲーム」としての冷戦史観：国民国家と情報智業の重畳モデルの試み」は、情報社会学の枠組み（威のゲーム、智のゲーム）を用いて、冷戦史観の枠組みを整理し、新興国封じ込めの実例を分析した論文です。筆者の豊かな教養に支えられた国際関係、文明の本質を明らかにするものであり、情報社会学に対する貢献は大きいと考えます。

原書論文「情報社会学の視点による国際レジーム分析－アジア太平洋経済協力（APEC）を事例として－」は、情報社会学の枠組み（「国民国家⇔国際社会」「産業企業⇔世界市場」「情報智業⇔地球智場」）を用いて、APEC の国際レジームの形成過程を分析した論文です。筆者の国際関係、情報社会に関する豊かな教養に支えられたものであり、情報社会学の研究内容を豊かにするという意味では、情報社会学に対する貢献は大きいと考えます。

原著論文「定量的解析手法による西ヨーロッパの一人あたり GDP の長波分析」は、最新の分析手法を駆使して「長波」の検出に取り組み、そのプロセスや用いられた手法についての報告は、学会にとっても価値がある論文であると思います。先行研究のフォローや関連文献の渉猟についても、学術論文としての形式的要件を十分に満たしていると思います。

原著論文「国別トップレベルドメイン名(ccTLD)の利用実態とそのガバナンスの課題」は、トップレベルドメインのうち、国別トップレベルドメイン(ccTLD)に関して登録および管理の仕組みについて解説し、ccTLD の各管理組織における登録料を調査し、登録料と一人当たり GDP などの経済指標の相関を求めた論文です。研究の切り口は斬新であり、萌芽的研究と言えます。

原著論文「“東京県民”の多様な東京スタイル-mixi の県民コミュニティにみる共有性と固有性-」は、mixi のデータを用いて、＜東京＞県民スタイルと東京県民を構成する東京＜県民＞スタイルについて実証的に分析した、まさに時宜にかなった興味深いテーマの論文です。東京に居住している地域出身者のライフスタイルを SNS のコミュニティから考察した点は新規性、独自性があり、一定の各県民の差異が提

示できたことは社会的意義も大きいと考えます。

研究ノート「地域活性化事業と地域の伝統産業とのコラボレーションにおける人的ネットワーク形成の効果に関する研究－桐生市の事例から－」は、地域活性化事業を、繊維産業を根幹とする伝統産業と比較対象としてソーシャル・キャピタルの概念をキーワードに人的ネットワークの視点から地域社会の組織化による地域活性化の政策的方向を示したものです。今後のさらなる研究に期待をします。

研究ノート「高等学校におけるメディア教育の可能性に関する一考察－総合的な学習の時間と放送部による映像制作の事例を比較して－」は、現在の教育の問題点である自己効力感の欠如、メディア・リテラシーについての普及、映像製作により開発された能力の測定尺度作成など、広い範囲を研究対象としています。今後のさらなる研究に期待をします。

研究ノート「インターネットトラブルの分類方法の提案」は、ネットトラブルの先行研究における分類を収集し、トラブル事例を「金銭トラブル」「コミュニケーショントラブル」「情報管理に関するトラブル」「心身のトラブル」の4大分類と「ネット詐欺」や「ネットいじめ」などの17中分類による分類方法を提案しています。今後のさらなる研究に期待をします。

研究ノート「オピニオン・リーダー層の変化と消費者行動－「渋谷系」ストリート・ファッションを事例として－」は、ファッションの情報伝播に関して社会階層という視点から考察した新規性のあるテーマです。ファッションについて *street consumer* という新たな視点からの研究は、ファッション・ビジネスの消費者へのアプローチという観点から、*Retail* マーケティング分野での貢献度は高いと思われます。今後さらに正確なデータに基づく実態の究明とファッション・ビジネスの市場アプローチへの新たな切り口の市場戦略提言に期待します。

会員の皆様からの積極的な論文投稿をお願いいたします。

2011年6月18日

情報社会学会編集委員会
委員長 大橋 正和